過去の出産体験の認知と次回出産に対する self-efficacy の関係

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2017-10-03 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 亀田, 幸枝, 島田, 啓子, 田淵, 紀子, 関塚, 真美, 坂井, 明美 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/34926

一般演題〈研究〉出産体験

34

過去の出産体験の認知と次回出産に対するself-efficacyの関係

金沢大学医学部保健学科
○亀田幸枝　島田啓子　田淵紀子
関塚真美　坂井明美

Ⅰ 緒言

妊婦が持つ出産に対する self-efficacy（出産に対処できる自信感）は，出産時のストレスコントロールを高め，また出産体験の肯定的な受け止めにつながるといわれている[1)2)]。この self-efficacy の形成には成功体験が重要視されることから，過去の出産体験の認知の仕方が次回の出産に対する self-efficacy に影響を及ぼすと考えられる。そこで，本研究では，過去の出産体験の認知を「安楽性」，「予想の一致性」，「満足感」の側面から測り，次回の出産に対する self-efficacy との関係を検討した。

作業仮説：過去の出産体験が「安楽」，「予想通り」，[満足]であった妊婦の方が，「辛い」，「予想外」，「不満足」と捉えている妊婦よりも出産に対する self-efficacy が高い。

Ⅱ 方法

2000 年 7 月～8 月に北陸の産科 10 施設で順調な妊娠経過をたどった妊娠 28 週以降の経産婦 168 名を対象とした（有効回答は 140 名，83.3％）。健診前または妊婦教室前の待ち時間に研究目的を説明し，承諾の得られた妊婦に自記式質問紙を配布し回答後に即時回収した。測定用具は，出産に対する Self-Efficacy Scale（島田ら,2000）を使用した。この尺度は，行動遂行に対する自分の能力への自信を予測する「効力予期」とその自分の行動がもたらす結果を予測する「結果予期」の二側面から捉えた各々26 項目の 5 段階リッカート評定（ほとんどできない（1 点）～十分にできる（5 点））である。また，過去の出産体験の認知は，安楽性（辛い（1 点）～安楽（5 点）），予想の一致性（予想外（1 点）～予想通り（5 点）），満足感（不満（1 点）～満足（5 点））とした。分析は，統計解析ソフト Statview.Ver.5 を用いた。出産体験の認知は，各々のスケールの得点から中央値を基準にして高得点群・低得点群に分け，self-efficacy に差があるか否かを比較した（t 検定）。

Ⅲ 結果

対象の平均年齢は 30.0±3.6（SD），妊娠週数は平均 34.2±2.8 週であった。出産回数は，1 経産 102 名（72.8％），2 経産 33 名（23.6％），3 経産以上が 5 名（3.6％）であった。

1） 出産に対する self-efficacy と過去の出産体験の認知の得点

出産に対する self-efficacy（range26～130 点）は，効力予期が最小値 49，最大値 130，平

均 90.1±16.8，結果予期は最小値 45，最大値 130，平均 89.4±17.2 であり，いずれも正規分布を示した。出産体験の認知（各々の range1～5 点）は，安楽性が平均 2.6±1.3，予想の一致性が 2.4±1.2，満足感が 3.7±1.2 であった。

2）次回出産に対する self-efficacy と過去の出産体験の認知との関係（図 1）

次回出産への self-efficacy は，前回の出産体験を「辛い」，「予想外」，「不満足」であったと認知している群に対して，「安楽」，「予想通り」，「満足」と認知している群の方が有意に次回出産への self-efficacy（効力予期，結果予期ともに）が高いことを示した（$p<0.05$～0.01）。従って，仮説は支持された。

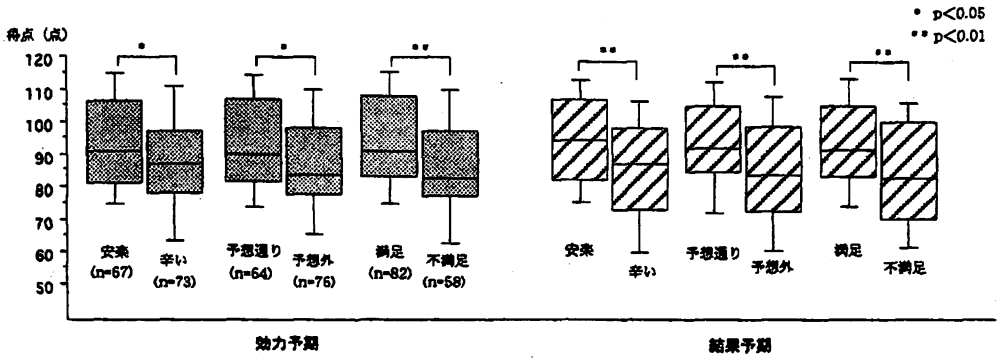

図1　次回出産に対するself-efficacyと過去の出産体験の認知との関係

Ⅳ　考察

本調査により，過去の出産を安楽，予想通り，満足であると捉えている妊婦の方が self-efficacy が高いことが明らかとなった。これは，成功体験を self-efficacy の先行要件の一つとしている Bandura[3] の見解を支持するものであった。更に，成功体験が次の出産の影響要因としてフィードバックすることから，妊婦と医療者側が協働してバースプランづくりを行い，より現実に近い出産イメージが持てるように支援することの重要性が示唆された。

本研究の限界は，出産体験の認知を 3 側面から捉えたものであることに加え，一部の地方の限定された対象から横断的に得られた結果に基づくものである。

Ⅴ　結論

過去の出産体験が「予想通り」，「満足」，「安楽」であった妊婦の方がそうでない妊婦よりも次回出産に対する self-efficacy は高かった。

Ⅵ　文献

1）Mannning MM. and Wright TL.:Self-Efficacy expectancies,outcome expextancies,and the persistence pain control in childbirth,J Pers Soc Psychol,45(2),421-431,1983.

2）Kathryn Crowe and Carl von Bayyer,:Predictors of a Postive Childbirth Experience, BIRTH16:2,59-63, 1989.

3）A.Bandura,原野広太郎監訳：社会的学習理論，金子書房，東京，1979.